

地方独立行政法人りんくう総合医療センター
平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成 30 年 8 月

泉佐野市

目 次

	ページ数
1 年度評価の方法	1
2 全体評価	2
(1) 評価結果と判断理由	2
(2) 全体評価にあたって考慮した事項	2
3 大項目評価	3
3-1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項	3
(1) 評価結果と判断理由	3
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	3・4
(3) 評価会の意見、指摘等	4
3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	5
(1) 評価結果と判断理由	5
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	5・6
(3) 評価委員会の意見、指摘等	6
3-3 財務内容の改善に関する事項	6
(1) 評価結果と判断理由	6・7
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	7
(3) 評価委員会の意見、指摘等	8
3-4 その他業務運営に関する重要事項	8
(1) 評価結果と判断理由	8
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	8・9
(3) 評価委員会の意見、指摘等	9

1 年度評価の方法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 28 条第 1 項の規定に基づき、地方独立行政法人りんくう総合医療センター（以下「法人」という。）の平成 29 事業年度の業務の実績に関する評価を、地方独立行政法人りんくう総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見等を踏まえて、次のとおり行った。

1 評価の基本方針

中期目標及び中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、法人の継続的な質的向上に資するものとし、業務運営の改善や効率化等の特色ある取組や様々な工夫を積極的に評価するものとする。また、評価を通じて、中期目標及び中期計画の達成に向けた取組状況等を市民にわかりやすく示すものとする。

2 評価の方法

評価は、「項目別評価」（小項目評価及び大項目評価）と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人の小項目ごとの自己評価をもとに、実施状況等の事実確認、法人のヒアリング等を通じて、年度計画に照らし合わせて進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証、評価を行う。

「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、また、法人化を契機とした病院改革の取組みなども考慮しながら、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

なお、上記 1 評価の基本方針及び 2 評価の方法については、平成 23 年 8 月 31 日評価委員会決定した「地方独立行政法人りんくう総合医療センターに対する評価の基本方針」及び「地方独立行政法人りんくう総合医療センターの年度評価実施要領」を踏襲したものである。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

地方独立行政法人となり第2期中期計画の第2年次である平成29事業年度において、**年度計画及び中期計画の達成に向けて概ね計画どおり進捗している。**

大項目評価において、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項ではB評価（概ね計画どおり進んでいる）、業務運営の改善及び効率化に関する事項はC評価（計画からやや遅れている）、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項はA評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断したものである。

各計画項目の取り組み状況としては、業務運営の改善及び効率化に関する事項において、労働基準監督署から是正勧告を受け、改めて勤務体制やコンプライアンスなどの立て直しを図る必要が生じており、働き方改革の趣旨も踏まえた対応策を講じることが求められる。

一方、財務内容の改善に関する事項については、病床稼働率が年度目標を超える94.4%となるなど、前年度を大きく上回る収支改善が見られ、2年間の緊急措置として策定された財政再建プランに沿った進捗状況となっている。加えて、前年度に実施したセールアンドリースバックによる土地の早期の買戻し及び研修棟の買取りを低利融資で実施して、当面の財務運営の安定化を図ったものである。

総体的には、当該事業年度における個々の課題はあるものの、全体としては中期計画に沿った運営がなされていると認められる。次年度以降、診療報酬改定の影響など不確定要素もあるが、まずは財政再建プランの確実な実施により財政基盤を築いていくことを期待するものである。

(2) 全体評価にあたって考慮した事項

- ① 病床稼働率が前年度比3.2ポイント増の94.4%と15年ぶりの94%台を達成するなど、各種経営指標も前年度からの改善が見られる。
- ② 5階海側病棟にHCU病床（ハイケアユニット＝高度治療室）を4床整備し、救急患者をはじめとする重症患者を受け入れたほか、救急外来患者数が前年度から増加している。
- ③ 平成30年4月の患者サポートセンター設置に向けて、当該年度に各方面と調整し、より患者に安心してもらえる体制づくりに努めた。
- ④ 診療報酬のDPC係数において、当該年度の実績が反映され、平成30年4月から大学病院のレベルに次ぐ特定病院群に指定された。
- ⑤ 労働基準監督署からの是正勧告については、法人の法令順守の認識不足であることは確かであるが、独法化前から引き続く事案もあり、市としても一定の責任を有する。

3 大項目評価

3-1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**B評価（概ね計画どおり進んでいる）**とする。
- 35項目の小項目評価のうち、職員の接遇向上のみⅡとなっているが、救急医療でV評価、災害医療、入退院サポートセンター、地域医療連携の3項目でIV評価となっている。

特に救急医療では、救急外来患者数の増加があり、全体の病床稼働率の上昇にも寄与しているものと考えられる。このことから、大項目評価としてB評価が妥当であると判断する。

なお、Ⅱ評価となっている職員の接遇向上において、患者満足度調査が他病院と比較可能な調査方法に変更して数値が低かった点は、真摯に受け止める必要がある。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（特に認める場合）

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がⅢ～Ⅴ）

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（特に認める場合）

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1（1）災害医療・救急医療①】について、災害拠点病院として緊急事態に対応できる体制を維持し、国土交通省地震防災訓練その他訓練を実施して、マニュアル見直しなどの検討を行った。また、DMATの登録者数は前年度から増加しており、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ② 【1（1）災害医療・救急医療②】について、救急医療において急性期外科センター・重症外傷センターの機能に加え、新たに四肢単純骨折患者の受入体制として機能外傷センターを整備して救急受入体制を強化したこともあり、救急車搬送患者数は増加しており、小項目評価ではV評価としたものである。
- ③ 【1（3）高度医療・先進医療の提供③】について、HCU病床4床を整備して救急患者を受け入れたことは認められるが、緊急心臓カテーテル、t-P A症例件数は前年度からは減少している。

- ④ 【3 (2) 患者中心の医療⑤】について、入退院サポートセンター利用者数が増加しており、医療介護の必要に応じて退院前に地域の施設の職員と共に患者の支援を行っており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ⑤ 【3 (4) 職員の接遇向上①】について、苦情件数は前年度より減少しているものの、当該年度から他病院と比較できる調査方法とした患者満足度調査において、入院・外来とも他病院の平均を相当下回っており、小項目評価ではⅡ評価としたものである。
- ⑥ 【4 (1) 地域の医療機関との連携①】について、紹介率 64.7%、逆紹介率 112.5%で年度目標値を達成し、高い数値を維持しているほか、なすびんネット登録件数が大きく増加するなど、地域医療連携の強化を図っており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価 項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 質の高い医療の提供	9			7	1	1
2 医療水準の向上	7			7		
3 患者・住民サービスの向上	15		1	13	1	
4 地域医療機関等との連携強化	4			3	1	
合計	35	0	1	30	3	1

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- ① 本周産期センターの特長であるハイリスク分娩を受け入れることができるという機能を十分に発揮できたことは高評価に値するが、全国的な少子化の影響がある中でも、分娩数増加のため引き続き工夫した事業展開を期待する。
- ② 平成 29 年度の手術件数が、前年度比較で相当数増加していることから、手術室の不足が懸念され、改善策を講じることを期待する。
- ③ 入退院サポートセンターと地域医療連携室を統合した患者サポートセンターの設置は、利便性の観点から一定評価できる。一方で、気軽に利用できる配置とは言えず、患者の誰もが容易に相談できるような運用に努められたい。

3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、C評価（計画からやや遅れている）とする。
- 12の小項目のうち、評価がⅡとなっている運営管理体制の強化①、目標管理の徹底③、人事給与制度②の3項目を除き、Ⅲとなっている。
- 法人本部を設置し、管理部門の組織体制強化を図ったほか、各種手当の見直しや時間外勤務縮減に取り組んでいることは認められるが、労働基準監督署から是正勧告を受け、その対応に時間を要していることから、大項目評価としてC評価が妥当であると判断する。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（特に認める場合）

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がⅢ～Ⅴ）

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（特に認める場合）

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 運営管理体制の強化①】について、法人本部を設置し、管理体制の強化を図ったものの、労働基準監督署から是正勧告を受け、組織としてのコンプライアンスの構築が求められることから、小項目評価ではⅡ評価としたものである。
- ② 【2 (1) 目標管理の徹底③】について、診療科部長会議をはじめ院内各種委員会等を開催し、改善策等の審議を行っているのはよいが、職員の出席率が低いものもあり十分審議されていない、または周知徹底できていないこともあり、小項目評価ではⅡ評価としたものである。
- ③ 【2 (2) 人事給与制度②】について、給与カットを実施する一方で、職員のモチベーション向上のためのインセンティブ手当の支給を検討するとしていたが、進捗がみられないことから小項目評価ではⅡ評価としたものである。
- ④ 【2 (3) 職員の職務能力の向上①】について、多職種による症例検討会を定期的で開催するなど、教育研修プログラムを整備しているが、シミュレーション機器の利用実績は前年度から減少している。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 運営管理体制の 確立	2		1	1		
2 効率的・効果的 な業務運営	10		2	8		
合計	12	0	3	9	0	0

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- ① 病床稼働実績 94.4%というのは類稀な数値であり、地域の拠点病院としての役割を十二分に果たしていると評価できる。一方で、職員の長時間労働問題も推測され、引き続き方策を検討し、改善されていくことが望まれる。
- ② 実効性ある働き方改革の実現には、患者側の理解が必要であり、病院と患者の相互理解が深まるような有効な方策を実施することが望まれる。
- ③ 病院側は実績を余すことなく報告書に記載することとし、市側においては、その報告を基に、総合的に評価することを求める。

3-3 財務内容の改善に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、A評価（計画どおり進んでいる）とする。
- 12項目の小項目のうち、IV評価が収入の確保の②、④、⑥、⑦及び費用の節減の②の5項目が該当し、7項目がIII評価となっている。
- 資金収支では、医業収益の増加によることはもちろんのこと、セールアンドリースバックによる土地を有利な病院債で買い戻したほか、リース料の負担をなくすための研修棟の買取りも低利融資で実施するなど、財務面での取組みもあり、前年度末よりもキャッシュフローが改善している。
- 当期純損失となっているものの、臨時損失を除くと経常利益に黒字転換しており、前年度から大きく改善している。
- 医業収益は、前年度から7億円以上増加しているが、これは病床稼働率の大幅な上昇に加え、HCU病床の整備やリハビリテーションの強化などの診療単価アップの取組みも寄与している。ただ、費用削減について、材料費比率は収益増もあって微減となっているものの費用節減の取組みの成果があまり表れていないが、大項目評価としてはA評価が妥当であると判断する。

S ……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(特に認める場合)

**A ……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目がⅢ～Ⅴ)**

B ……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。
(Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上)

C ……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。
(Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満)

D ……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(特に認める場合)

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【2 (1) 収入の確保②】について、土日を含め切れ目ない急性期リハビリテーションの提供を行い、総実施単位数を増加させ収益増を図ったことから、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ② 【2 (1) 収入の確保④】について、HCU病床の整備、小児入院医療管理料4の算定、栄養指導加算の増加など、診療単価の増加につなげており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ③ 【2 (1) 収入の確保⑥】について、ふるさと寄附のメディカルプロジェクトへの寄附を募る取組みを強化し、周知、お願いに努めた結果、大きく寄付額を増加できたことから、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ④ 【2 (1) 収入の確保⑦】について、DPC係数の向上を図るべく、7:1看護や重症病床の施設基準の維持に努めた結果、次年度以降、特定病院群に指定されることとなったことから、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ⑤ 【2 (2) 費用の節減②】について、後発医薬品使用率は86.5%で、前年度及び目標値を大きく上回っているほか、内服処方薬の有効利用に取り組み、廃品薬品削減に努めたことから、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価 項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 資金収支の改善	1			1		
2 収入の確保と費用の節減	11			6	5	
合計	12	0	0	7	5	0

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- ① 平成 29 年度事業決算は、前年度と比較して改善がみられ高評価に値する。
- ② 労働基準監督署からの是正勧告への対応など経営状況に予断を許さない要因が存在することから、引き続き効率的かつ安定した病院運営の確保に努められたい。

3-4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 2 項目とも小項目評価がIV評価となっているが、感染症対策及び国際診療の
い
ずれも、着実に充実を図っていることから、大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

S …… 中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)

**A …… 中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目がⅢ～Ⅴ)**

B …… 中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。
(Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上)

C …… 中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。
(Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満)

D …… 中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 感染症対策】について、当該年度は疑似患者 1 件の受入れ実績があったものの特に問題はなかったが、次年度に集中治療を行うための高度安全病床の改修を予定していることから、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ② 【2 国際医療交流拠点づくり地域活性化総合特区の活用及び協力】について、仲介業者を介しての外国人患者受入れは、整形外科に関する中国人患者を受け入れ、収益向上につなげたほか、医療通訳養成のための当院での実地研修終了者を増加するなどの取組みを評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価 項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 感染症対策	1				1	
2 国際医療交流拠点づくり地域活性化総合特区の活用及び協力	1				1	
合計	2	0	0	0	2	0

(3) 評価委員会の意見、指摘等

○ 特になし